

地域の力で 虐待を未然に防ぐ。

一人きりで子育てに悩むお母さんは、ストレスを抱えて子どもに当たることも。虐待を防ぐため、私たちにできることは何か。地域でお母さんたちを支援している児童委員の方にお話を聞きました。

―普段、どのような活動をされているのですか。

子育て中のお母さんたちが交流できるような地域で子育てサロンを開いたり、子育ての相談に乗ったりしています。子どもを虐待から守るには、まずお母さん子育てのストレスから救わなくてはなりません。

―活動する中で難しく感じることはどんなことですか。

子育てサロンに来てくれる方は、子育ての悩みをある程度自分で発信できるのですが、人との交流が苦手な方や病気で来られない方たちは、孤立感や子育ての悩みを抱えがちです。そんな方たちの気持ちをどうすく上げたらいいいのか、いつも難しいと感じています。

―一人で悩んでいる方を支援するため、私たちができることは。

ちよつと元気がなかったり、地域に親しい人がいないようなお母さんを見つけたら、まずはあいさつからでも気軽に話し掛けてみてほしいですね。顔を合わせ、声を掛け合う関係ができるだけでも、そのお母さんは安心感を持てるかも知れません。

―一人きりで子育てに悩んでいる方にメッセージを。

悩みを話すのは勇気があることですよ。でも一人で悩まず、地域の人や行政に相談してみてください。一歩踏み出せば気持ち楽になりますよ。

まち全体で
子どもたちを
虐待から
守ろう

児童虐待を防ぐための 地域の協力員を募集

子どもの虐待を防止するため、地域で啓発活動などを行う「オレンジリボン地域協力員」を募集しています。グループ単位での簡単な研修を行っていますので、ぜひ参加してみてください。

【問い合わせ】随時、児童相談所 ☎622-8630へ。



オレンジリボンをシンボルマークに子どもの虐待防止を呼び掛けています。

子どもの虐待防止フォーラムを開催

児童虐待と子育てなどをテーマに精神科医の香山リカ氏の講演のほか、専門家によるシンポジウムなどを行います。

【日時】11/24(土) 10時～16時

【会場】コンベンションセンター(白石区東札幌6の1)

【定員】1,000人 【費用】無料

【申し込み】10/15(月)から区役所などで配布する申込用紙を、10/29(月)(必着)まで。(抽選)

【問い合わせ】児童療育課 ☎622-8620



未来を担う子どもたちのために 虐待のないまちづくりを

市では子どもの権利条例を定め、子どもが虐待を受けずに社会の一員として尊重され、安心して暮らせるまちづくりを進めています。児童虐待は地域の協力なくして防ぐことはできません。未来の札幌を支える子どもたちが元気に健やかに成長できるよう、みんなで育んでいきましょう。



子どもの権利条例のシンボルマーク。
約3,600人の子どもの投票により選ばれました。

里親制度にご協力を

家庭での養育が困難となった子どもを、愛情深く育てていただく里親を募集しています。

【詳細】児童相談所 ☎622-8630



札幌の里親が集まる「里親会」への寄付も募集

市が管理するさぽーととほっと基金では、札幌里親会の活動を応援する寄付を受け付けています。ぜひご協力ください。

【詳細】市民活動促進担当 ☎211-2964